

「たった一言が人の心を温める。たった一言が人の心を傷つける。」
ネットを見ていたらこんな言葉が私の目に飛び込んできました。私たちは様々な言葉を使って、人とのコミュニケーションを図っています。

以前、母が言葉の大切さについて話したことがあります。飲食店で働いていた母は、お客さんが沢山入ったある日、目まぐるしい忙しさだったそうです。それでも、お客さんへの「ありがとうございました。」を、笑顔とともに伝えると、お客さんから「ごちそうさま、美味しかったですよ!」という一言が返ってきたと言います。当たり前普通の言葉に思えますが、そう言われた母は、自分が調理したわけでもないのに嬉しい気持ちがおみ上げてきたそうです。たった一言ですが、お店に対する満足感やお客さんの思いやりが伝わってくる一言です。母はその経験を通じ、改めて一言の大切さを感じた、と話しています。私も飲食店を出る時は自然と「ごちそうさまでした。」と言うのですが、それは両親が必ずそう言っていたからだと思います。昔、母がかけてもらって嬉しかった何気ない一言が、こんな風に広がって別の人の心をほっこりと温めているのです。

また、言葉は人の持つ力を伸ばす能力も備えています。私が中学一年生の頃、スポーツ交流会で障害物リレーの二人三脚に出るようになりました。当日になり、障害物リレーの種目担当の先輩から「障害物リレーに出る一年生が一人出られなくなったから代わりに出てくれない?」と突然言われ、断ることができず、やり方がわからない不安な思いのまま「わかりました。」と答えてしまいました。初めてのスポーツ交流会で、すでに緊張していることと、先輩から頼まれてしまったという責任感で頭の中が真っ白でした。不安しかないまま障害物リレーの順番がきてしまいました。すると二人三脚のペアの友達が「愛美、出られなくなった子の代わりにやるの?めっちゃくちゃっこいいじゃん!頑張れ!」と言ってくれました。友達からすれば何気ない一言だったかもしれないです。けれど私には、その一言がすごく心に響きました。さっきまで不安でいっぱいだった私の心に光を与えてくれました。それなのに適当にやり過ぎなんて友達にはもちろん、同じチームのみんなに失礼だし、何よりそんな自分が情けない。すぐに気持ちを切り替えて、「たとえ失敗したとしてもバトンを繋げられたらそれでいいや。」という前向きな気持ちで走りきりました。結果は一位になることはできなかったけど、私の中では後悔なく終わることができました。

このように思いの込もった一言で、人は前に進めるのです。「おはよう」「ありがとう」「ごめんね」「頑張れ」どれもわずかな言葉ですが、この一言を言うか言わないかでその場の空気が変わったり、言われた人の心を明るく照らしたりします。そしてその嬉しさをまた別の誰かに伝えようとする。その繰り返しがこの世の中を温かく住み

よいものに変えていくように思います。

一方で言葉はたった一言で人の心を傷つける能力も備えています。ネットを使っての誹謗中傷のニュースがここ何年かで問題になっていきます。一人でも多くの人が自分の書いた言葉の残酷さに気付き、反省し、繰り返さないことを心がければ、それによって傷つく人は減らせます。そして人の心を照らし、前へと進める温かい一言を発してあげば、そこには悲しみよりも喜びの多い世界が待っているはずですよ。

まるで魔法のように、相手に幸せや喜びを与えたり、「凶器」となったりする言葉。私はこれからもその使い方に注意し、誰もが幸せになる言葉を使って生きていきたいです。